

農作業コツのコツ

【第12号】
令和5年7月8日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

熱中症は7月～8月に多く発生し、70代以上でリスクが高くなっています。

単独での作業を避け、作業前・作業中の水分・塩分補給、こまめな休憩をとりましょう。

水稻の生育は、概ね平年並みですが、葉色はやや濃くなっています。
収量・品質の確保に重要な時期です。稲体活力維持のために、**水管理**に留意し、各ほ場の生育に応じた適切な**穂肥施用**や斑点米カメムシ類の**防除**を徹底しましょう。

水稻の生育状況

(7月4日:福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期 ※R5は予想日		
	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	R5	平年	
コシヒカリ	5/13	5/14	64.1	63.2	23.0	22.6	11.4	11.5	4.3	4.1	(7/10)	7/10	
てんこもり	5/12	5/9	59.3	54.7	38.4	33.3	12.2	12.3	4.6	4.2	(7/13)	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/15	5/15	60.8	59.4	23.6	27.9	11.5	11.5	4.3	4.2	(7/14)	7/14
	てんこもり	5/6	5/9	52.4	53.7	30.3	34.1	12.0	12.2	4.3	4.2	(7/16)	7/15

調査筆数: コシヒカリ(慣行苗のみ)3筆、他2筆

水 稲

1 穂肥施用

(1) とみちから、五百万石、てんたかく81

肥効調節型基肥、分施肥系ともに出穂前に葉色を再度確認し、下表に基づき、葉色が極端に淡い場合は出穂3日前(走り穂の時期)までに**追肥**を行い、登熟能力の向上を図りましょう。

○出穂期予想と追肥施用の目安

品種	田植日	出穂期予想	追肥が必要な葉色目安 (出穂7日前)	施用量
とみちから	5月1日	7月13日	4.5以下	追肥3号 10kg/10a
五百万石	5月6日	7月17日	4.2以下	
てんたかく81(慣行苗)	5月4日	7月15日	4.0未満	
てんたかく81(密苗)	5月4日	7月17日		

(2) コシヒカリ

①肥効調節型基肥体系(基肥:Jコートコシヒカリ2号)の場合

原則、穂肥の施用は不要です。

②分施肥系(基肥:基肥555)の場合

幼穂長15mm頃の時期(5月13日植えで7月17日頃)に生育状況を確認し、下表に基づき、追肥3号を施用しましょう。

○幼穂長15mm頃のコシヒカリの姿

草丈	82cm以下	83~85cm	86cm以上
葉色	3.6程度	3.8程度	4.0以上
稲の姿等	ガッチリしている	ややメラついている	メラつく

○穂肥の目安

回数	施用時期		幼穂長15mm (幼穂形成期から7日後)	幼穂長20mm (幼穂形成期から9日後)	施用しない
	1回目	10a当たり施用量		10kg	
2回目	施用時期		1回目の1週間後	1回目の1週間後	幼穂形成期から 2週間後
	10a当たり 施用量	粘質土以外	12kg	12kg	12kg以下
		粘質土	11kg	11kg	11kg

※施用量等、詳しくは地区担当指導員に問合わせください。

(3) てんこもり

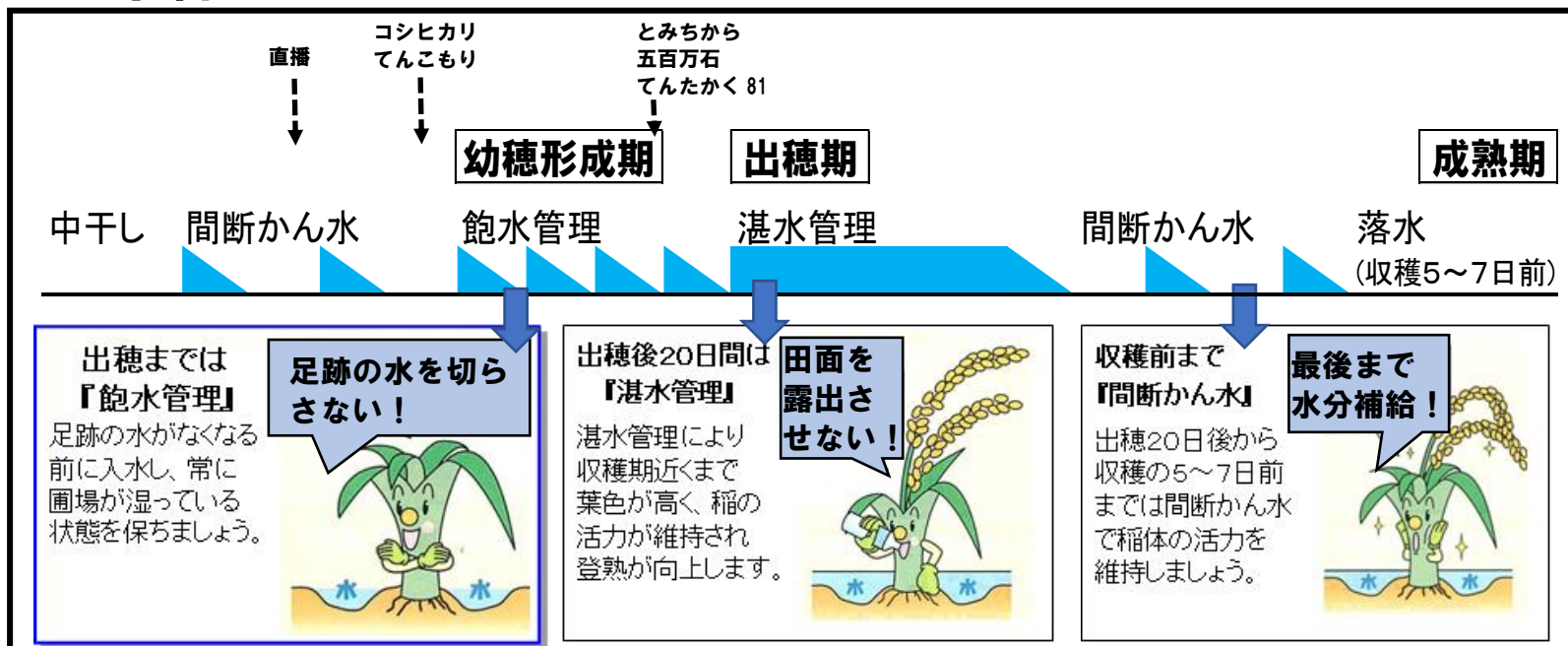
①**肥効調節型基肥体系**（基肥：Jコートてんこもり専用）の場合

- ・原則、穂肥の施用は不要です。
- ・ただし、幼穂形成期前後に**葉色4.0**を下回る場合は、直ちに**追肥3号**を10a当たり**11kg程度施用**しましょう。

②**分施肥体系**（基肥：基肥555）の場合

1回目穂肥は**幼穂長1mm**（5月12日植えて7月11日頃）を確認したら**直ちに**11kg/10a、2回目穂肥は1回目穂肥の10日後に13kg/10aを施用しましょう。

2 水管理



(1) とみちから、五百万石、てんたかく 81

出穂期までは**飽水管理**、出穂後は20日間の**湛水管理**とし、稲体の活力を維持しましょう。

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播

- ・幼穂形成期までは**間断かん水**、その後は出穂期まで**飽水管理**を行い、足跡に水が残る程度の湿潤状態を保ちましょう。
- ・コシヒカリで葉色が濃く、ほ場が軟らかい場合は、7月20日頃まで間断かん水を継続しましょう。
- ・てんこもりは、**葉色4.0**を下回らないよう、**干しすぎに注意**しましょう。
- ・直播で茎数が過剰なほ場では、落水期間がやや長めの**間断かん水**を継続しましょう。

3 病虫害防除（早生）

適期に2回の基本防除を徹底し、カメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょう。

○早生の防除時期の目安

防除時期の目安			薬剤、散布量	
			液剤【無人航空機】	粉剤
1回目	穂が全体の90%出た頃	7月17日～21日頃	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a
2回目	1回目の1週間後	7月24日～28日頃	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤 DL 4kg/10a

- (注) ①必ず出穂状況を確認して防除を行いましょう。
 ②1回目防除と2回目防除の間隔は7日間とし、10日以上空けないようにしましょう。
 ③農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。
 ④無人航空機での散布の際は、電線・電柱等への接触事故に注意しましょう。
 ⑤早生は2回目防除後もカメムシ類が多い場合は、トレボン粉剤 DL で追加防除しましょう（使用時期：収穫7日前まで）。

※中生・晩生・直播については次号でお知らせします。

カメムシ類を抑えるため、基本防除時期まで雑草の穂が出ないように草刈りしましょう。

リアルタイムに情報をお伝えするため、電子メールによる情報提供を行っています。右のQRコードから登録画面に進めます。詳細はJ A福光までお問い合わせください。

